

**株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)
番組審議委員会 議事録**

1. 日時：2022年7月7日(木) 15:00～15:45

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室(オンライン形式)

3. 出席者：(敬称略)

○番組審議委員

番組審議委員長	齋藤 純一(株式会社IPGネットワーク 監査役)
番組審議委員	五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック 取締役)
番組審議委員	谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)
番組審議委員	佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)
番組審議委員	田中 良典(一般財団法人ヤマハ音楽振興会 事業企画開発部 普及企画グループ シニアパートナー)
番組審議委員	松山 梢(映画ライター)
番組審議委員	山崎 哲央(元株式会社テレビ神奈川プロデューサー、元株式会社tvkコミュニケーションズ取締役、元関内ホール館長)
番組審議委員	望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 経営企画グループ シニア アドバイザー)(書面参加)

<欠席委員>

番組審議委員 駒形 四郎(音楽評論家)

○放送事業者：(敬称略)

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長 福田 泉

編成局長 中口 裕丈

前編成局長 谷 俊之

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

城水 千明(代表取締役)

堀口 昭典(代表執行役員社長)

井上 靖(執行役員)

木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

4. 放送事業者から説明

株式会社シーエス・ワンテンより110度CSの概況について

5. 報告事項

①ミュージック・エアの編成方針・内容

ミュージック・エアは、大人のための良質な音楽番組を放送している音楽チャンネルで、欧米の洋楽を中心としたSA級のアーティストの番組を中心に放送。

特集番組としては、エルヴィス・プレスリーの伝記映画「エルヴィス」の映画公開に合わせて等、旬なアーティストの話題に合わせた特集やジョン・レノン、フレディ・マーキュリー等大物アーティストの命日に合わせた周年特集等を編成。

今年はい日公演もコロナ禍の時に比べると回復しつつあり、来日アーティストの特集もここ数年は行えていなかったが、ようやく行えるようになってきた。

ミュージック・エアで放送している音楽ジャンルの割合は、洋楽ロック・ポップスが75%、海外のジャズ番組が10%、その他のオリジナル番組が15%となっている。

洋楽ロック・ポップスの年代割合は、70年代が1番多く全体の25%、次に80年代が18%になっている。

また、視聴層としてはスカパーの視聴データを元にしたデータで、50代男女が最も多くなっていることから、ターゲット層にマッチした編成内容となっていると言える。

6. 番組内容審議

〈番組概要説明〉

① 「ビートルズ：イン・ザ・ライフ」

世界で最も有名なロック・バンド、ビートルズの偉大な軌跡を辿るドキュメンタリー。バンド結成から、ハンプルク時代、デビュー、世界進出、スタジオ時代、解散まで、数多くの偉大な功績を残したバンドのヒストリーを約1時間でコンパクトに解説。

63分番組 制作年：2019年

(初回放送日：2021年11月25日／日本初放送)

〈委員からの意見〉

◆ご多分に漏れず「ザ・ビートルズ：Get Back」を見て、今更ながらの発見と驚きと感動を覚えた自分にとって、本作はゆったりと1シーン1シーンをなぞらえながら確認できる良質な番組だった。

最近、映画界で増えているミュージシャンの伝記映画も良いが、本作のようなドキュメンタリー作品からは時代を超えた説得力のようなものが伝わる。それによって、自分と同年代のシニア層は同時代にビートルズを目撃することができた喜びと幸福に包まれ、一方の若者達には本作を見ることによって、同時代に目撃出来なかった悔しさを心に滲ませながら、僕ら世代とは違った発見をして、この困難な時代にこれからの音楽シーンを切り開いていって欲しいと真剣に感じさせる作品。

◆番組説明資料に書いてある通りだと思う。初めて見る人とか、久しぶりに見る人に対して、上手くまとまっている番組。この手の番組は、昔はすごくたくさんあって、ほぼ知っている内容だったが、他の委員がおっしゃるように、おそらく久方に触れる人とか、あまりビートルズに詳しくない人にとっては、最初から最後までのおさらいの番組としては、すごくいい番組だと思うし、知っている内容とはいえ、最初から最後まで見せる力があるこういう強いコンテンツを持つてくるのは、すごく重要なことだと思う。

◆私も素晴らしい番組だと思った。特に私はビートルズフリークなので。

大学で教えていて最近よく思うが、最近の大学生ぐらいの年代だと、ビートルズのことさえ知らない人間の方が多い。

ミュージック・エアをご覧の皆さんの年齢層でいうと、あまり大学生のことは気にしなくてよいのかなのと思うが、もしも、その知らない人向けの入門編というような位置付けで、この番組をとということだとすると、番組のタイトルが「ビートルズ」だけだと、なかなかキャッチーにはなっていないのではないかなと思う。もうちょっとビートルズを知らない世代に向けてのというような打ち出しがあると、もっと響くのかなと思った。

繰り返しになるが、内容はとても素晴らしかった。

- ◆皆さんおっしゃっていることとほぼダブるが、よく1時間にこの歴史をまとめたなっと思ったのが最初の感想で、初めての人にはビートルズの歴史がこれを見ただけでわかるのではないかと感じました。

番組としては、非常にリアルな映像がたくさん使われていて、素晴らしいと思った。これを知ってもらおうということで言うと、先程、大学生の子はビートルズのことあまりよく知らないというご意見もあったが、若くて音楽をやっている子達は、やっぱり掘ってビートルズを聞くようになってきている人達も身近にはいるので、そういう人達が改めてビートルズをCDとかそういうものじゃないもので知っていくためには、ものすごくいい材料なのではないかと実感した。

なので、例えば、これからポールがまた来日するかどうかかわからないが、そういったタイミングとか、今回は映画をきっかけにということだったが、その度にやっぱり放送してほしい番組の内容じゃないかなと思った。とても素晴らしい作品だった。

- ◆ビートルズのことに関しては、私のような人間でも、もう全て分かりきっていると思っていたが、インパクトのある出来事とかを断片的に知ることが多かった。

今は音楽系のドキュメンタリー映画というのはたくさん作られているが、そういった作品と違って、エンターテインメント作品としての編集の妙があるわけではなく、時系列で淡々と彼らの歴史を追っているのが、情報番組として、とても勉強になったし、人間的な魅力とか音楽的な魅力を掘り下げるということよりも、その周辺のスタッフやファンのこと、当時の時代とかムードとか文化ということ、周辺の情報がすごくわかりやすくまとまっていたので、私のようにあまり詳しくない人間にとっても、入門編として、とても魅力的な作品だと思った。

- ◆前回ポール・マッカートニーが来日した時にライブを見に行ったが、あの年で3時間近くずっと声を出しているのは凄いと思った。

曲に関しては皆さんよくご存じだと思うが、その歴史について知れてすごく面白かったというのと、先ほど大学生が知らないという話があったが、若い子の好きなミュージシャンは、ビートルズを見て育ってきているということはあると思うので、そういう流れでオリジナルを知るという意味ではすごくよかった。

今回は歴史からアプローチした作品だが、逆にその1曲1曲に焦点を当てたドキュメンタリーがあっても、面白いと思った。

最近BSフジでエイリアンズとか曲に対するドキュメンタリーを1時間番組ぐらいでやっているの、特にビートルズだったらそういうのも成立するのかなと思った。

また、曲のタイトルが英語字幕だったので、日本語字幕もあると親切ではなかったか。

- ◆私もギリギリビートルズ世代の1番最後の方だと思うが、今回この番組を拝見して、やはり1時間ちょっとの尺でよくまとめているなと感じたのが最初の印象だった。

ただ、番組を何度か繰り返して見ていて気がついたことが数点あった。まず事実との相違があると感じたことが2点ほどあった。

1つはナレーションで、「ヘイ・ジュード」がホワイトアルバムに収録されているという表現があったが、これは事実とは違うと思ったので、なぜこういう形で番組がまとめられたのか、ちょっとそこは「おやっ？」と思った。

もう1つ、途中で何度かインタビューを受ける形で登場したジェニファーさんという方のコメントだったと思うが、最後のライブが67年と表現していたが、私の手元にある資料を見て確認した限りでは、66年のサンフランシスコが最後ではないかと思う。これもそのまま放送してしまってたよかったのかと思った。

これは番組を今までずっと作ってきた人間の発想だが、おそらくこういう番組をパッケージでミュージック・エアの方で購入されて放送したので、やってはいけないことかもしれないが、せっかくなので、この60分の番組の途中で1回視聴者に向けて、解説をつけるパートを編集で入れることができれば、面白かったのではないかと思った。

もう1つ、これも番組の構成上のことだが、番組のちょうど中ほどぐらいにジョージ・マーティンが出てきて、ジョージ・ハリスンのソングライターとしての開花について証言されていた部分があったが、このあたりの構成がちょっとギクシャクしていたように感じた。というのは、その後に5人目のビートルズとして、ジョージ・マーティンを改めて紹介しているので、そういうテクニックもあるのかもしれないが、いわゆる分かりやすさということを優先する番組だったとしたら、この辺の構成について、違和感を感じた部分がある。

とはいえ、冒頭に申し上げたように、1時間でビートルズの長い歴史をきちっと最後のジョージ・ハリスンの亡くなったことにまで触れて紹介していたので、非常によくできた作品だったと思う。

◆60年も経っていると、歴史上の出来事になっていて、リアルタイムな体験者として、私が中1の時に来日しているが複雑な思い。

過去に何度もビートルズの過去の映像見てきたが、今回初めて歴史的に「ビートルズが古いて、俺も古いな」とひしひしと感じてノスタルジックな気分になった。

今後も他のバンド、ビートルズだけではなくて、ストーンズ等も含めて、歴史的なものを放送していただきたいと思っている。

<番組供給者からのコメント>

- ・いただいた様々なご意見、アイデアは確認して、参考にさせていただき、編成に活かしていきたい。

② The 1975 : ライヴ・イン・フランス2019

<番組概要説明>

今年8月20日・8月21日開催の日本の音楽フェス「SUMMER SONIC 2022」のメインステージのヘッドライナーを務めるなど日本での人気も高い2010年代を代表する英国の4人組ロック・バンド、The 1975が2019年にフランスで開催された「ピッチフォーク・ミュージック・フェスティバル・パリ」で行ったライブ。

70分番組 制作年：2019年

(初回放送日：2022年4月14日／日本初放送)

<委員からの意見>

◆The1975ファンの自分にとって、このバンドがミュージック・エアの「歴代ロック特集」で編成されることは、喜びと共にちょっとした戸惑いがある。喜びは、The1975が歴代のレジェンドのロックの文脈と流れで紹介され、多くの人がこのバンドを認知すること。そして、ちょっとした戸惑いとは、バンド初期からのファンにとっては、それがちょっと悔しいというか、もう少しの間、自分たちだけの「ちょっとはみ出たアーティスト」であって欲しかったという願いだろうか。そして、もちろんファンにはそんな願いを裏切って、みんなにもっと知ってもらいたいというもうひとつの屈折した願いもあるものだ。

是非、まだこのバンドを知らないロック好きの視聴者の方々に知ってほしい。

そして、そのような新しい出会いの場をミュージック・エアには提供して欲しいと思う。

◆私はこのバンドのライブを頭から最後まで見たのは今回初めてだが、すごくいいバンドなんだと思った。

CDを持っていたり、ミュージックビデオをYoutubeですずっと見ていたりということで、結構いいバンドだなと思っていたが、これだけ頭から最後まできっちりできるバンドだという認識ができたことはすごく良かったと思うし、番組としても、正にサマソニの常連だが、今年新しいアルバム出るといった意味で言うと、非常にある意味この2010年代を代表するバンドの1つであるこのバンドの番組ができたというのはすごくいいことだったのではないかと考えている。

◆私も素晴らしいバンドというか、バンドの素晴らしさがちゃんと伝わってくる番組になっていて、とても楽しく拝見した。この2年ぐらいコロナ禍のせいで、リアルなライブができなくて、代わりにみんなオンラインでライブをやるので、プラスアルファで何かやらなきゃいけない、提供しなきゃいけないというような映像をずっと見てきた。本来のライブがすごくシンプルに描かれているというか、映っているというのが、逆に新鮮でとてもいい映像作品だと思った。

◆とても楽しんで拝見させてもらった。UKでも全米でもちゃんと1位というところで、実力派でもあり、内容もいろんなセンスが盛り込まれていて素晴らしいバンドだなと実感した。

1点だけ、ライブ映像の収録というところでいうと、惜しいなと思った点があって、昨今、映像と融合させたライブ・パフォーマンスが結構日本でも多くなっているが、背景に結構大事なものが映っていたシーンがいくつかあって、ボーカルの人も「今の映像見てくれた？」というコメントがMCで入っていたが、そういう映像とバンドサウンドが一緒になって表現している部分については、後ろの映像もきちっと映しておきながら、ライブ・パフォーマンスを重ねるような収録になっているとよかったのではないかなと思いながら見ていた。

バンドの中身は素晴らしいと思ったが、収録という部分で言うと、そこが1点気になったところだった。とはいえ、非常に楽しめるライブ番組であったと思う。

◆私も個人的にすごく好きなバンドだったので、見られて嬉しかった。特に「シンセリティ・イズ・スケアリー」の時にPVでマット・ヒーリーが被っていたのと同じような帽子を観客が投げ入れるシーンは、その場にいるファンしか共有できないようなスペシャルな場面を見ることができて、本当にファンにとってはとても嬉しい番組だろうなと思った。

ミュージック・エアではロックのレジェンドを多く取り上げているイメージだったので、こういうエルヴィスからの流れで、歴代ロック特集の中でこういうバンドを取り上げるというのはすごく意味のあることだなと思った。

このバンドのライブ映像もYoutubeで無料のものも転がっていったりするし、好きな情報を厳選して個人が取りに行ける時代なので、偶然の出会いが少ないだろうなと思う。

こういう企画力のある魅力的な編成が、ロックのオールドファンにとっても若いファンにとっても新しい知らないバンドとの出会いになる可能性があるのも、その媒介になることがこういう有料番組の存在になると思うので、とても魅力的だと思った。

◆曲調が曲によってだいぶ変わるので、幅広い層にアプローチできる面白そうなバンドだなと、まず思った。

プロモーションに関してだが、多分先ほど他の委員が言われたように、サマソニで8月20日に来日というのと、ニューアルバムが今日発表になっていたらしいが、10月14日にアルバムがリリースされるとネットで載っていたので、その辺で再放送とか同じタイミングでその番組をかけると、いいプロモーションになるだろう

◆私も恥ずかしながら、こういう形でじっくりこのThe1975のライブを見たことがなくて、今回じっくり見たのはほぼ初めてだった。

知り合いのラジオDJの方とかにリサーチしたが、このバンドは非常に日本人受けするグループだということで、業界の人の間では有名だそうで、ある意味もしかすると私や今いらっしゃる皆さんの世代よりも、もう少し若い世代の方が詳しいのではないと思うが、それは言い換えれば、ミュージック・エアでこういうアーティストのライブ映像を編成していくということは、非常に有意義なことではないかと思った。もしかすると、新しい音楽との出会いということにもつながると思う。

サマソニでの来日のタイミングでもあるので、非常にタイムリーな企画だった。

◆これまで名前だけは知っていたが、1度も聞いたことがなかったので、今回初めて聞く機会をいただいてよかった。

魅力的なボーカルで、すごくセンスのいい音楽だということで、人気があるのは当然だなということがわかった。

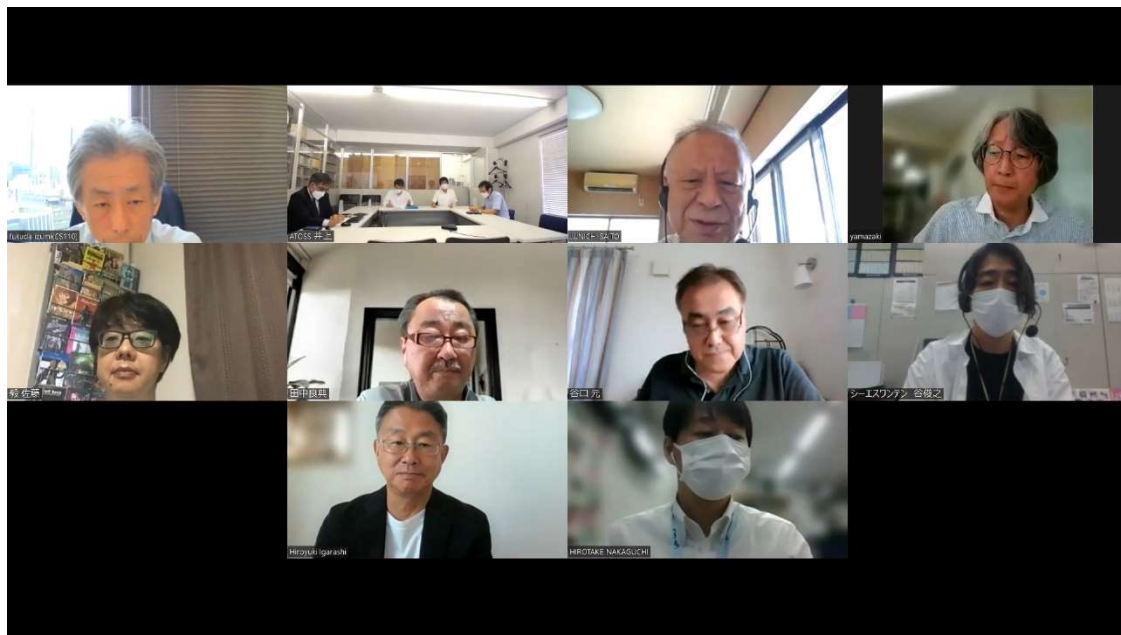
いい意味でのロック音楽の伝統とか、流れがきちんと繋がっていて、これはこれで素晴らしいバンドだと思う。また、コンテンツとして、ライブの映像もしっかりしていて、現在のヨーロッパの音楽シーンを伝える良い企画だったなと思っている。

これからも過去のものではなくても、現在の音楽シーンを伝える良い番組を提供して、若い人たちがミュージック・エアを視聴してくれるようになるようなことを願っている。

＜番組供給者からのコメント＞

ご意見にもあったが、来日に合わせてこの番組の放送を予定している。また10月にリリースという情報をいただいたので、そちらにも合わせて編成していきたいと思っている。





- ・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和4年7月7日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
令和4年8月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上